

【事例紹介】

アイルランド留学の魅力

Study on the Emerald Isle

アイルランド留学センター（株式会社アイシーティ）

マーケティング・ダイレクター 岡田 紀子

OKADA Noriko

(Marketing Director, Ireland Celtic Travel Co. Ltd.)

キーワード：アイルランド、語学留学、留学支援

アイルランドの魅力

アイルランドはエメラルドの島と呼ばれ、1年中緑があふれる、自然豊かで美しい国です。また、たいへん治安のいい国です。人々の気質はフレンドリーでイージーゴーイング、おしゃべり好きで誰にでも気軽に話しかけてくれます。人口475万人ほどの小さな国なので、人と人とのつながりが今でもとても大切にされています。



第一言語はゲール語（アイルランド語）ですが、公用語は英語です。アイルランドの英語は訛りが強いのではないかと心配する方もいらっしゃるかもしれませんが、少し早口ではあるものの、発音は比較的明瞭です。ケルト人をルーツに持つアイルランドには独特の文化があり、特に伝統音楽やダンスは世界的に有名で、日本にも数多くの愛好者がいます。また、言葉を大切にする国民性のためか、多くの著名な詩人や作家を輩出しています（ノーベル文学賞作家も4人います）。

気候は日本と同じように四季がありますが、夏は20～25℃前後とそれほど暑くなく、また冬も、最低気温が5℃前後と、極端な寒さではありません。

日本からはヨーロッパの各都市や中東などを経由して行くことができます。各航空会社がリーズナブルな往復航空券を出しています。アイルランドはEUのメンバーで、通貨はユーロです。LCC（格安

航空会社)を利用すれば、非常にリーズナブルな金額でヨーロッパに旅行に行くことができます。LCCは多くの主要都市へ就航しており、所要時間も、例えばロンドンまで約1時間、パリまで約2時間、バルセロナまで約2時間半、といった具合です。多くの留学生が、長期休暇や、時には週末を利用して旅行に出かけます。

広々とした牧草地の広がるアイルランドでは、ビーフ、ラム、ベーコンなどを使った肉料理がおいしく、また、海岸沿いの地域では牡蠣やロブスターなどのシーフードも食されます。主食はじゃがいもで、家庭料理はどれも素朴でおいしいものばかりです。代表的なアイルランド料理(名物)としては、ラム肉を使ったアイリッシュシチュー、ビーフのギネス煮込み、スモークサーモン、フィッシュアンドチップス、などが挙げられます。もちろん、ギネスビールやウイスキーもアイルランドの名物です。このほかに、チーズやバターなどの乳製品や、紅茶もとてもおいしいです。

アイルランドの教育制度と就職事情

アイルランドの教育制度は、日本の小学校にあたるプライマリーレベル(初等教育)、中学高校にあたるセカンダリーレベル(中等教育)、そして大学や専門学校にあたるサードレベル(高等教育)、の3段階に分かれています。義務教育は日本と同じく6歳から16歳まで(または3年間の中等教育を終えるまで)です。高等教育機関は、国立の総合大学(7校)、県立大学(14校)、教員養成カレッジ等のその他公立カレッジ、私立カレッジなどに分類され、アイルランド全国にハイレベルで国際的な資格(学士号、修士号、博士号など)が取得できる高等教育機関が約30校あります。最先端の研究を行っている教育機関も多く、学部別のランキングで世界のトップ100に入るような大学もあります。研究分野と産業界との連携も密接です。セカンドレベルの学生のうち、ほぼ半数がサードレベルに進学します。

また、アイルランドは若年層の割合が高く、英語が公用語なので、人材マーケットとしても大いに注目されています。グーグルやアップルなどのIT企業を始め、多くのグローバル企業がヨーロッパ本部をアイルランドに置いています。アイルランドの高等教育戦略推進機関であるHigher Education Authorityの調査によると、2016年に学士・修士・博士コースを卒業した学生の7割が就業状況にあります。学士号コースに絞ると、62%が就業状況にあり、そのうち87%がアイルランドで働き、8%が海外で働いています。なかでも、IT関連学科の卒業生の就職率は81%に上ります(アイルランド国内の企業に絞ると76%)。アイルランドの大学院を卒業した留学生は、最長で2年間の滞在延長(就労)が可能なので、アイルランドで就職できるチャンスがあります。

アイルランド留学の特色

近年人気が高まっているアイルランド留学ですが、その理由としては、まずやはりアイルランドは治安が良く住みやすい環境であることが挙げられます。これは、特に海外が初めての方や中学高校などのジュニア学生にとって、非常に大切なポイントだと思います。銃を使ったような凶悪犯罪はまず起こりませんし、これまでのところ、イスラム系過激派組織によるテロなども発生していません。



首都のダブリンは人口130万人ほどですが、ロンドンやニューヨークのような大都会ではなく、歩いて回れるようなコンパクトな街です。コークやゴールウェイなどの地方都市はさらにこぢんまりとしており、落ち着いた環境でゆったりと勉強したい方に向いていると思います。人々はたいへん親切で、街角で地図を見ていると、たいてい声をかけて助けてくれます。また、アイリッシュパブに行けば、どこから来たのかと気軽に尋ねられることがよくあります。

ホストファミリーもたいへん親切です。フレンドリーで面倒見がよく、留学生の満足度はとても高いです。語学学校のホストファミリーは、基本的にすべてアイルランド人の家庭なので、英語のネイティブスピーカーと思う存分会話ができます。アイルランド人は元来おしゃべり好きな国民性なので、英語の勉強にはもってこいです。

日本人留学生の割合が他の英語圏に比べて少ないことも大きな魅力です。アイルランドの語学学校では約50%がヨーロッパからの留学生で、残りの50%がアジア、中南米、中東、アフリカなどから来ています。ヨーロッパだけでも何十もの国があるので（特に多いのはスペイン、フランス、イタリアなどですが）、どの学校でも国籍のバラエティはたいへん豊かです。日本人学生の割合は平均5~10%で、ロケーションや時期によっては、日本人が数人しかいないような学校もあります。大学・カレッジレベルでは、さらに日本人学生は少なく、ごく自然にアイルランド人学生と交流を深めることができます。アイルランドの大学には、ヨーロッパ、中東、アジアなど様々な国からの留学生もおり、また、アメリカやカナダなど、英語圏からの交換留学生も来ています。

ビザについて

ここ数年、語学留学ビザのルールにいくつかの変更が加えられ、現在EU圏外からの留学生は、6ヶ月の語学コースに申し込むと2ヶ月のホリデー（休暇）がもらえ、合計8ヶ月アイルランドに滞在することができます。この学生ビザがあれば、現地でアルバイトをすることも可能です。学校に通って

いる間は週 20 時間まで、ホリデー中は週 40 時間まで働くことができます（ただし、ホリデー期間が 6～9 月または 12/15～1/15 に重なっている場合のみ）。ホリデーの過ごし方は自由なので、学校を延長したり、旅行に行くなどしてもかまいません。他国の学生ビザと比べても格段に条件が良く、日本人だけでなく、韓国や南米からの学生にもたいへん人気です。大学レベルの留学生ビザでも同様にアルバイトが可能です。

ビザ等の手続きはシンプルかつフレキシブルです。アイルランドに 3 ヶ月以上滞在する学生は外国人登録が必要ですが、日本出発前に大使館などに出向く必要はなく、すべて現地で手続きを行います（ただし、ダブリンエリアでは、イミグレーションオフィスが混雑するので、日本から早めに予約したほうがよい）。学校を延長すれば、8 ヶ月の学生ビザは 3 回まで申請することが可能です（24 ヶ月＝最大 2 年間の滞在ができる）。

多様な留学コース

現在、アイルランド全土に 50 以上の認可語学学校があります。ほとんどの学校が通年で開校しており、年末年始を除けば、いつでも入学することができます。語学学校に入学できる最低年齢は 16～17 歳です。最も多くの学校があるのはダブリンですが、コーク、ゴールウェイ、リムリックなどにも複数の学校があります。このほかに、ウェックスフォード、ウォーターフォード、キラニー、エニスといった小さな都市にも学校があり、幅広い選択肢があります。各校には英語教師の資格を持った優秀な教師がおり、初級から上級まで幅広い英語レベルに対応しています。また、IELTS やケンブリッジ英検などの試験対策コースもあり、テストはダブリン、コーク、ゴールウェイなどの都市で定期的開催されています。

中高校生が対象のジュニア・コースも多くのエリアで開催されています。主に夏期に開催され、英語研修とスポーツや観光などのアクティビティーが組み合わされたコースです。また、最近では、ファミリー・プログラムやシニア・プログラムも徐々に人気が高まっています。ファミリー・プログラムは、夏期に開催される、家族で参加できるプログラムです。親御さんは大人向け一般コース、お子さんは子供向けのクラスで、それぞれ英語研修を行います。午後や週末は学校が主催するアクティビティーと一緒に参加します。子供向けコースは 5 歳くらいから入学可能で、通常、5～10 歳、11～15 歳といったように年齢別にクラスが分かれています。家族全員で参加なさる方もいますし、親子、またはお孫さんと一緒に参加なさる方



もいます。宿泊はホームステイか、自炊式アパートを借りることも可能です。シニアコースは、一般的に50代以上の方を対象としたコースで、同年代の方と勉強したい方向けの、1~2週間の短期プログラムです。こちらも、英語研修と午後や週末の観光やアクティビティーが組み合わされたもので、主に春や秋に開催されます。最近では、一般コースに入学し、数ヶ月~1年の長期滞在をなさるシニア世代の方もいます。こういったコースが人気なのも、やはりアイルランドが安全な環境であるが故だと思います。

ワーキングホリデー、インターンシップ

2007年からワーキングホリデー制度も始まりました。アイルランドのワーキングホリデーは、申請書受理時点で18歳以上、30歳以下の方が応募できます。最大1年間アイルランドに滞在ができますが、就学、就労、旅行などに関して期間の制限がありません。まず語学学校に行ってから仕事を探す、初めに国内旅行をしてから住む都市を決めるなど、自由にプランニングすることができます。



アイルランドを拠点に、LCCを利用してヨーロッパ各国に旅行に行くこともできます。ここ数年は定員を超える応募者があり、残念ながら抽選にはずれる方も出ていますが、年齢条件を満たしていれば、一度目の抽選に当たらなくても、再度応募することができます。伝統音楽やダンスなどの文化を学びたい、アイリッシュパブで働いてみたい、農場の住み込みで働いてみたいなど、語学研修とは異なる体験をしたい方に向いています。ワーキングホリデーのアルバイト先は、レストランやカフェなどでの仕事が多いようです。最近アイルランドでも寿司やラーメンといった日本食の人気が高まってきており、調理スタッフを募集しているような店も見かけます。

また最近では、日本から大学在学中に企業で短期の就業体験を行うキャリアインターンシップの人気が高まっています。ワーキングホリデービザを利用して、アイルランドでインターンシップを行う方もいます。ただし、インターンシップをする場合は、通常CEFR¹ B1以上（中級レベル、IELTS4.0-5.0程度）の英語力が必要になります。

留学相談、奨学金

最近ではテレビの旅番組や雑誌などでアイルランドを目にする機会もかなり増えましたが、まだまだ

¹ CEFR (Common European Framework of Reference の略。ヨーロッパ言語共通参照枠。) A1~C2 の6レベルに分かれ、ヨーロッパ全体で外国語の学習者の習得状況を示す際に用いられている。

情報が少ないという声を聞きます。インターネットでも、全ての情報が探せるわけではありません。長期留学の場合、外国人登録や学生ビザ申請に関して一定のルールがありますし、毎年細かな変更も加えられています。現地での生活情報なども含め、留学経験者に話を聞いたり、専門の留学エージェントに相談をすることも良い方法だと思います。

大学・カレッジレベルの留学の場合、各教育機関が独自に奨学金を出している場合があります（授業料の一部または全額を免除）。

詳細は Education in Ireland の下記ページを参照してください。

<https://www.educationinireland.com/en/How-Do-I-Apply-/Tuition-Costs-Scholarships/Scholarships>

